

令和 6 年度 静岡南部特別支援学校 静岡視覚特別支援学校 学校運営協議会議事録

1 日時 令和 6 年 11 月 6 日（水）午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2 場所: 静岡南部特別支援学校 3 階 小会議室

3 出席者:

静岡南部特別支援学校 学校運営協議会委員

静岡視覚特別支援学校 学校運営協議会委員

各校職員

4 目的

両校の地域との連携を含めた学校運営について運営協議会委員から助言等をいただき、主体的かつ積極的な教育活動の展開を図る。

5 内容

各校校長挨拶

自己紹介

校内参観

協議 合同協議…地域とのかかわりについて

各校別協議…新校に向けて等（静岡視覚特支）

地域と連携できること（静岡南部特支）

6 議事録

（1）各校より地域とのかかわりについて紹介

【静岡南部特別支援学校】

近隣の「カフェ蔵」との交流を通して、地域の方々と繋がりを深めている。

校外学習を通して、自然にふれ、公共施設を使用し、学びを深めている。

買い物の学習を通して、地域の商店と関わり、社会性を育んでいる。

地域のサークルとの交流を通して、新たな世界に触れ、興味関心を広げている。

ひまわり事業団への訪問を通して、地域の福祉施設を知る機会となっている。

【静岡視覚特別支援学校】

親子遠足や校外学習を通して、地域と触れ合い、自然体験を通して五感を育んでいる。

SDGs の学習を通して、地域社会への貢献意識を高めている

地域の商店街を歩き、働く人たちを知ること、将来への興味関心を高めている。

地域の企業との連携を通して、専門的な知識や技術を習得している。

地域の方々へのマッサージ施術を通して、進路学習を行っている。

(2) 全体協議

〔地域との連携〕

- ・地域との連携活動により実体験ができていることが良い。地域での関わり、体験が自信になる。学習に積極的に取り入れてほしい。
- ・商店街には生活につながる様々な店がある。さらに短大などの施設の活用も考えられる。地域との関わる方法は広げられ、様々な学習が展開できる。
- ・外に出ることで子どもたちを知ってもらうことができる。周囲の人がどのようなサポートをしたらよいのか実際に関わることでわかってもらえる。
- ・防災という視点からも子どもたちのこと、障害の特性のことを日頃より理解してもらうことが重要。今行っている地域の連携を重ねることが防災につながる。

(3) 各校別協議

〔地域と防災〕

- ・センター令和成人部は災害時に福祉避難所になるが、地域にどんな対象者がいるのか分かっていない。逆に、地域住民にも施設を分かってもらう必要がある。怪我等が無い人は学校に来てもらうなどセンターと学校が連携していくことも必要。
- ・AED、ベッド式のトイレなど、地域の施設で災害時にどこに行けば何があるのか知っておく必要を感じた。防災マップがあるとよい。
- ・災害時、行政側の支援が十分に回らないことも想定される。隣近所の地域で助け合うことが頼りになる。やはり地域に出て日頃から知ってもらうことが一番重要。
- ・ふだんから地域に出ることで、子どもたちがいろいろな人とかかわる力になる。初めての人とのかかわりが、避難生活を受け入れる力につながる。
- ・災害時、親に引き渡すことも困難が予想される。非常食など災害時は品薄になることも。食糧、避難場所等について管理を確実にしてほしい。
- ・訪問教育の児童生徒について、居住地域に知ってもらうための手立てを家庭と連携し学校も考えていく。通学生やセンター生が家庭にいて被災した場合についても考えていく。そのための情報収集を今後していく。



全体協議



各校別協議（静岡南部特支）